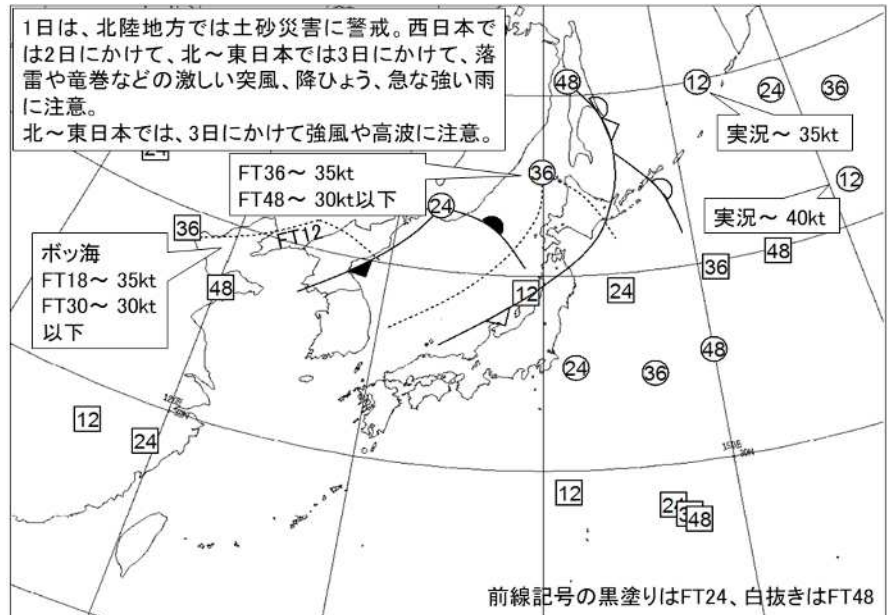


1. 実況上の着目点

- ① サハリン付近には 500hPa -36℃以下の寒気を伴った 5040m 付近の寒冷渦があって、対応する低気圧がオホーツク海付近をゆっくり東進。北日本を中心に西高東低の気圧配置となっている。北～東日本の日本海側では下層寒気移流による雲が流入し、北日本では3時間 5～10cm の降雪を観測。東日本では日本海側を中心に激しい雨を観測している所がある。
- ② ①の西高東低の気圧配置により、北日本では強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧はオホーツク海をゆっくり東進し、2日朝には千島近海へ進む。また、高気圧が日本海から日本の東へ移動し、2日にかけて西高東低の気圧配置は緩む。下層寒気移流による降水は次第に弱まる見込みだが、これまでの雨で地盤が緩んでおり、土砂災害の危険度が高くなっている所がある。1日は、北陸地方では土砂災害に警戒。
- ② 1項②の西高東低の気圧配置により、1日は北日本では強風や高波に注意。
- ③ 500hPa 5580～5640m の-24℃以下の寒気を伴ったトラフが、1日夜に対馬海峡付近に進み、2日にかけて西～東日本を通過する。このため上空寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。西～東日本では、2日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。このトラフに対応して、2日朝には関東の東で低気圧が発生し、東に進む見込み。
- ④ 500hPa 5400m 付近のトラフに対応する前線を伴った低気圧が、2日は発達しながら日本海を北東進し、3日にかけてサハリン付近へ進み、寒冷前線が北～東日本を通過する。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では2～3日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。また、低気圧や前線近傍では気圧の傾きが大きく、強い風が吹いて波が高い所がある。北～東日本では2～3日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(18時から24時間):多い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで):北海道・東北3m。③高潮(明日まで):大潮の時期。東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。